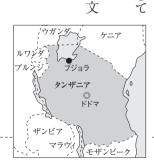
## ザニアの うさな世界 ク

立命館大学准教授 小川さやか

タンザニアの民族スクマが目指すのは、自民族による自文 「民族文化」の展示は、その民族の時間を止め、固定化して しまう危険をはらんでいる

化の創造と伝承のためのミュージアム。

これも、ミュージアムのあり方のひとつなのだろう



## ークのような博物館

承と保存、スクマ族の現代芸術の発展を目指すブジョラ文化センター 運営される屋外型の民族博物館である。同博物館は、スクマ公文書館、スクマ文化調査委員会、ブジョ ザ州マグ県ブジョラ村に位置するスクマ博物館は、 タンザニア北西部の中心都市ムワンザから市バスを乗り継ぎ、 アフリカン・クリニック、 手工芸専門学校とともに、 スクマ族のコミュニティ組織(CBO)によって 山道を歩くこと約一時間半。 の一翼を担っている。 スクマ族の伝統文化の継

学習したりもできる。 テージでスクマ族のダンスを鑑賞したり、 パビリオン、二大ダンス結社の館。多彩な展示施設をまわるうちに、来館者はしだいにスクマ族の文 る伝統医の邸宅、独自の数の概念を教えた青空学校、大小さまざまなドラムの展示が圧巻のロイヤル・ 学芸員とともにスクマ族の伝統的な建築様式を模したさまざまな展示施設をまわる約一時間のツアー に出発する。藁葺きの丸い形をした伝統的な家屋や、 スクマ族の伝統音楽と融合した一風変わった賛美歌を聞きながら、 ミュージアム・ショップを併設する博物館の事務所がみえてくる。 じつはアクセスの不便さも手伝って、 まるでスクマ族の生活世界を小さく縮小したようなテーマパ の最後には大蛇を操るショ 伝統的家屋を再現した施設に泊まりスクマ族の生活を体験 外国人観光客どころかタンザニア人にすらあまり知ら 鍛冶技術を紹介する館、 -もあり、予約すれば敷地内の特設ス 来館者はここで入館料を支払い ブジョラ教会の脇をすり抜ける 薬草と呪物が並べられ ークのようなこの

れていない。 設なのだ。 それもそのはず、 この博物館はスクマ族が運営するスクマ族のコミュニティのための施

## 時代に応じて民族文化を創りかえる

同文化センタ-ブジョラ文化センターが設立されたのは、 民族をめぐる扱いが大きく変化していく激動の時代であった。 -内に多数の施設が設立されていく植民地期末期から独立後の社会主義体制期にかけて イギリス植民地期の一九五四年のことである。 その

されるスクマ文化調査委員会を組織した。 場として選ばれた。 圧する従来の布教活動に代わり、民族の伝統文化を取り込んだキリスト教の布教活動を模索する実験 してバナ・セシリア(カトリック音楽の守護聖人)と称されるダンス一座や、 間接統治に適した政治組織(首長制)をもっていたブジョラ村は、 この地に派遣されたカナダ人の宣教師クレメントは、実験的な布教活動の一環と スクマ族の長老で構成 土着の信仰を弾

ニティの発展に活用するための拠点としてスクマ博物館を設立 はなく、みずからの文化・芸術を時代の変化に応じて刷新し、 ジョラ村の人びとは、 政策を実施していった。首長制度の廃止、 タンザニア人としての一体感を阻害するような閉鎖的で対抗的な民族意識の発生を抑えるさまざまな が平和的に共存する国家建設を推進するために、植民地期に創られた民族集団間の障壁を取り払い きく揺れ動く。 まさにブジョラ村で「スクマ族の文化とは何か」 公文書からの民族に関する記載の排除などは、 独立を果たしたタンザニア政府は、 この民族をめぐる扱いの変化において、 異民族との混住を招いた集村化政策、 独自の社会主義理念に基づいて一三〇以上の民族 が盛んに議論されるようになった直後、 ブジョラ村の活動にも大きく影響を与えた。 「失われゆく民族文化を保存する」ので 他民族との共生や新しい時代のコミュ スワヒリ語教育の徹 時代は大 ブ

応じて生き生きと変化する民族文化の面白さを発見できる。 プホップなどの現代ポピュラ-組み合わせた揃いの衣装を身にまとい、スクマ族の伝統音楽に、移住先で出会った異民族の音楽、ヒッ 鈴の足環など百年以上前から受け継がれてきた装身具と、 ニアの各地域に拡散して暮らすスクマ族のコミュニティが集結する。 音楽を融合させたダンスを披露して、 となって開催されるブラボー・ダンス・フェスティバルでは、タンザ パラソルやTシャツなどの現代の装身具を 彼らは、 その巧みさを競いあう。 ダチョウの羽根飾り 時代に



ブジョラ・カトリック教会の内部



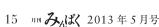












バナ・セシリア・ダンス一座のモニュメント